

市原市発祥の地

市原の里

ようこそ市原の里に。市原地区はJR内房線八幡宿駅から南東約2kmの台地上にあります。当地区には、万葉集にも登場する阿須波神社、飯香岡八幡宮(八幡)の元宮といわれる市原八幡神社、境内に県内最古の石灯ろう(市原市指定文化財)が建つ光善寺など古い歴史を誇る神社仏閣が多くあります。また、県史の謎のひとつになっている上総国府の有力推定地にも挙げられています。市原台地下の水田からは律令時代の奈良・平安期の条里制遺跡、10世紀以前に造られたと思われる側溝を持った古代道遺跡が確認。古代の荷札?と思われる県内3列目となる木簡も見つかっています。近くの五所四反田遺跡(現五所小)からは古墳時代の県内初の鳥形木製品など多数の木製品が出土しています。

阿須波神社は、古くから「旅の神様」として崇敬され、境内には「庭中の阿須波の神に木柴さし吾は齋はむ帰り来までに」の万葉歌碑が建つ。故湯川秀樹博士も来県の折に訪れています。境内に立つと西方に富士山が見え、中道(古代遺跡)が長く延びる風景。その先には「いまたち」が…。この地が「上総国府」だったのだという実感がわきます。おそらく、「更級日記」の作者の菅原孝標の女も「市原の里」から旅立ったのでは。ますますロマンが広がります。

光善寺もお薦めスポット。国道297号から連なる参道わきに、「更級日記」の作者が願掛けしたと伝えられる「御手洗井戸」。境内には、室町時代前期の作と見られる石灯ろう、僧・行基の説法、源頼朝が腰かけたと伝えられる「麦飯石」、現世利益をかなえてくれるという薬師如来像を安置した薬師堂などが建っています。また、近くからは国分尼寺よりも古い瓦が出土。古い歴史をうかがわせます。市原市内で字名が市原とつくのは当地区だけです。市原市発祥の地。わたしたちは「市原の里」と呼んでいます。

市原の柳楯神事

一方、古い歴史ゆえに伝統行事も代々と受け継がれています。「市原の柳楯神事」(千葉県無形民俗文化財)は、600年以上にわたる飯香岡八幡宮の秋季大祭にまつわる特殊神事。市原地区で調整された柳楯が同神宮に到着しないと大祭が始まらない。柳は神降臨の霊木、柳楯は古代のみこしの原型だといわれています。そのほかにも多くの神社があり、まさに古代に誘ってくれるパワースポット。「市原の里」は魅力がいっぱいです。

(市原里づくりの会・山越国臣)

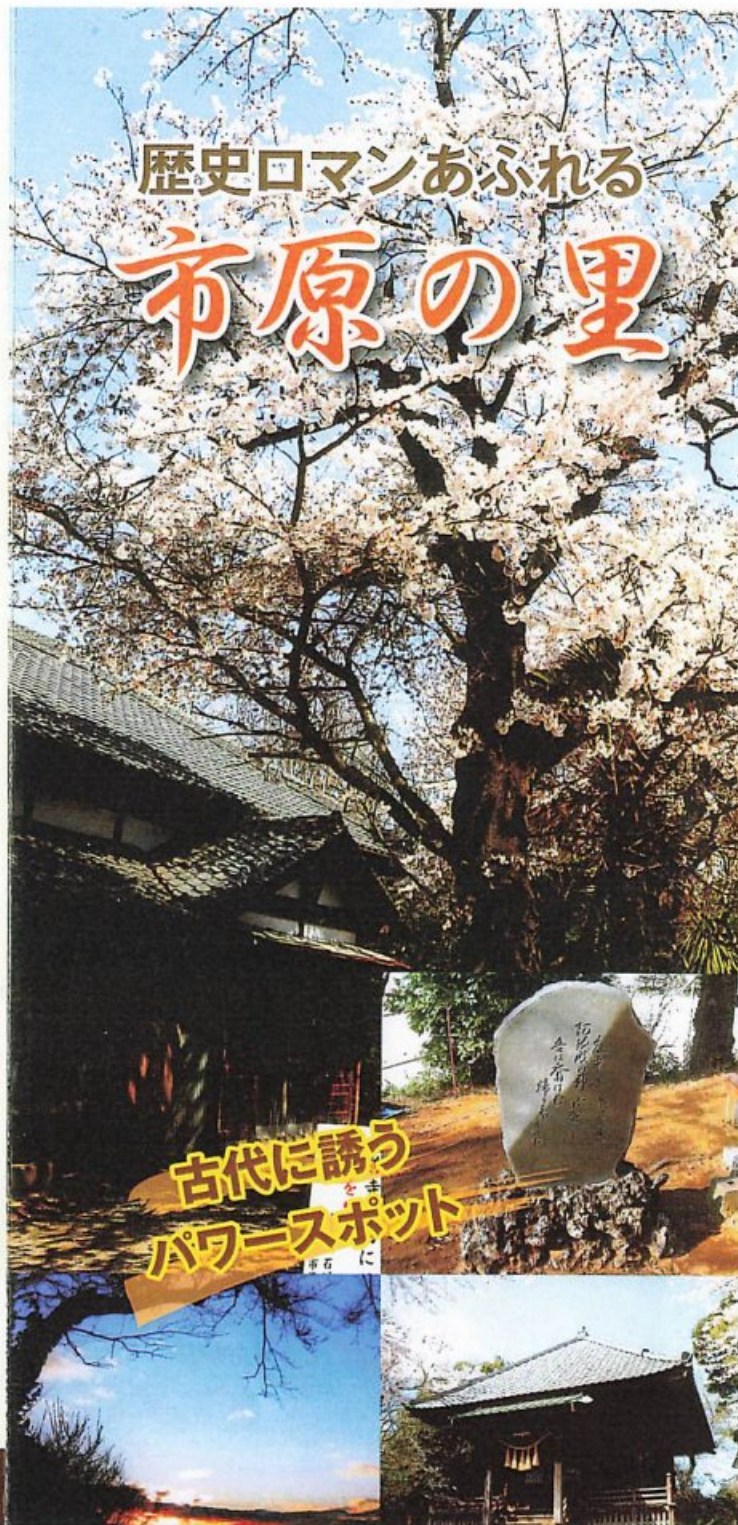


市原里づくりの会、市原柳楯神事保存会は地域活性化を目的に古い歴史と文化を持ち、魅力あふれた市原地域を多くの人たちに知ってもらおうと歴史・伝統文化の継承、PRに努めています。併せて「更級日記」の旅立ちをイメージした絵柄をキャラクターに市原の里ブランドにも取り組んでいます。

市原里づくりの会 市原柳楯神事保存会

お問い合わせ先 〒290-0015 市原市市原112 TEL/FAX.0436-41-0279

夢まるふあんど委員会





①阿須波神社
古来から旅の神様として知られ、里人らに崇敬。春は境内が桜色に染まる。冬は富士山を望むことができる。



②柳橋神事
飯香岡八幡宮の秋季大祭にまつわる神事。市原の里人らによって調整、五所地区まで巡行。翌日、柳橋は同宮に到着する。



③柳橋の道
柳橋神事では調整された柳橋は市原台地から「中道」を通り送られる。その下には、古代道跡が確認されている。



④万葉集歌碑
阿須波神社境内に建つ。同神社は万葉道跡とされ、防人の歌(万葉集巻20・4350)が刻まれている。



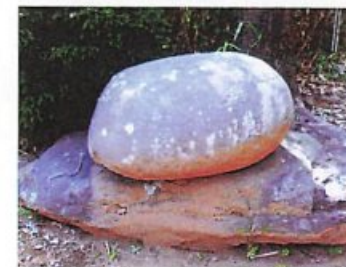
⑤市原八幡神社
飯香岡八幡宮の元宮と伝えられ、祭神は誉田別尊(ほんだわけのみこと・応神天皇)。柳橋神事の柳橋巡行の出発地。市原市市原1番地に建ち市原市はここから始まっている。市原市の1丁目1番地。発祥の地でもある。



⑥光善寺石灯籠
市原市の指定文化財。室町時代前期の作と推定され、県内の石灯籠では最も古い。高さは約2メートルで安山岩製。簡素だが安定感のある姿を示している。このような世の石灯籠は、関東地方では希少な存在だ。



⑦光善寺薬師堂
「お薬師さま」と呼ばれ、毎年8月第1日曜日に開帳される。堂内の厨子は室町時代の技法を残しており文化財級。



⑧麦飯石(ばくはんせき)
薬師堂境内にあり、影向(ようごう)石とも呼ばれている。僧・行基の説法、源頼朝が腰かけたなどの伝説が残る。

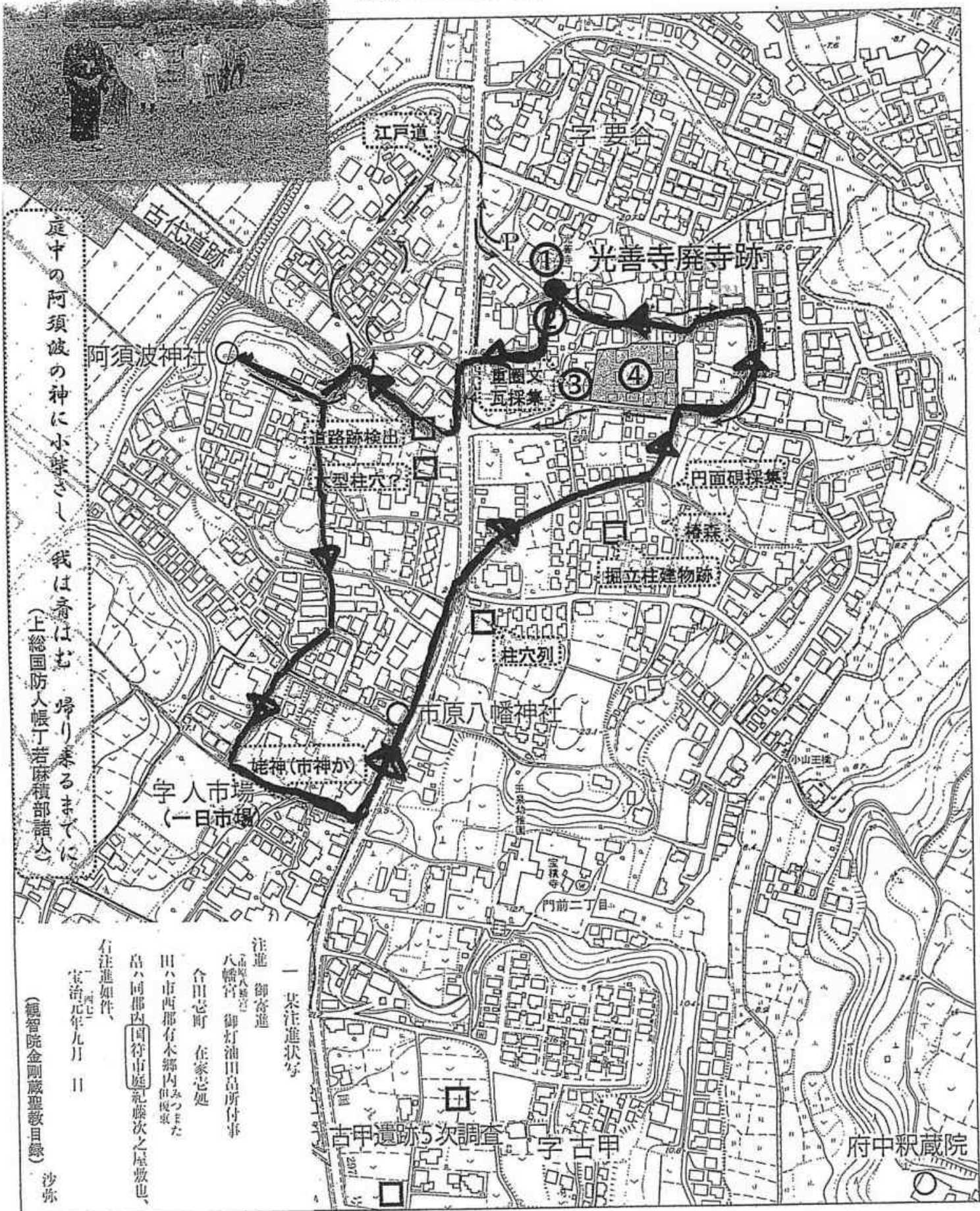


⑨薬師堂御手洗井戸
光善寺へ通じる参道わきにある。昔は里人たちの貴重な水源だった。「更級日記」の作者が願かけた伝えがある。



⑩光善寺参道
シイやケヤキの古木が繁り。早朝は朝日が差し込み神秘的な光景を見せる。パワースポット・光善寺への入り口。

市原地区案内図



庭中の阿須波の神に小祭さし
 我は着はむ 帰るまで
 (上総国防人帳丁若麻積部諸人)

一 某注進状写
 注進 御寄進
 八幡宮 御灯油田島所付事
 合田宅町 在家宅処
 田八市西郡有木郷内みつまた
 島八同郡内国行市庭祀藤次之屋敷也
 右注進如件
 宝治元年九月 日
 (續智院金剛藏聖教目錄) 沙弥

① 版築状遺構 ②大川清瓦採集地点 ③光善寺南遺跡 ④鶴田恵吉国庁推定地

宮本・牧野「関東地方の重圓文系軒瓦」(奈良文化財研究所『古代瓦研究VI』2014) 図4を改変